

## ～今月の読み物～

## 「薬師寺東塔改修工事見学」

深谷木材(株)

深谷 昇

全国木材産業振興大会の翌日薬師寺東塔解体修理見学会が有ったので行って来ました。覆屋の中にある改修工事中の東塔を一般の人が「見せてくれ」といってもダメとのこと。全国木材産業大会に付随する行事なので特別にお願いして許可されたいらしい。(´艸`)

薬師寺の南門入口からドーンと、覆屋が。中には解体修理中の薬師寺東塔が。今日はこの中に入ります。中に入って写真撮影はOKですが、SNSはダメですと釘をさされました。SNS拡散で薬師寺と役所が中を見たい人の問い合わせで電話がパンクしたことがあったとのこと。

奈良時代(730年)創建以来4度ほど改修工事をしているが、110年ぶりの大修理。明治時代(1898～1900)以来で全て部材を解体しての修理は初めて。部材は2万点。全てに番付を打ってバラバラにし、腐った部分は新しくし、不具合の有る部分は修理して組み立てている真っ最中。



世界遺産・古都奈良の文化材 薬師寺



解体修理中の薬師寺東塔

少しだけ説明しますと、

東塔は奈良時代天平2年(730年)建立。高さ34メートルの三重の塔。塔はお釈迦様の遺骨(仏舎利)を収める建物。屋根の上に有る避雷針のような相輪の下、肉饅みみたいな形の露盤伏鉢の中に納骨されている。

7世紀後半から8世紀後半、白鳳文化の様式を伝える各層に裳階(もこし)という小さな屋根が有り大小の屋根のリズミカルな様式美から凍える音楽と称される。六重の塔に見えるが三重の塔。現在修理の真っ最中。平成21年から修理開始、平成32年完了を目指している。



改修工事前の薬師寺東塔



東塔覆屋



心柱の根元から2メートルが腐って空洞に。  
元から高さ約2メートルを取り換える。天竜川上流の大木を伐採しつなぎ合わせた。



心柱継手はこんな複雑な加工です。説明の大工さんが上げ下げして見せてくれました。

心柱の伐採年を年輪年代測定法で実施した。これは大変なニュースで薬師寺東塔は平城京新築説と飛鳥時代の藤原京(694年～710年)からの移築説の論争が有って今回の年輪年代測定法で年輪が719年を示し720年代に伐採されたと出たそうです。ゆえに平城京遷都後の新築説が有力に成って移築派の薬師寺さんサイドは「これはまいった」と頭を抱えてるらしいです。

さて、ここから覆屋の中に入ります。10名ずつ15分だけという約束です。



東塔が幾重にもしっかり隙間無く足場に覆われています。

四角い垂木の下に丸く加工された垂木も見えます。肘木がしっかり垂木をそして屋根を支えています。野地板は全て新しく張り替えてあります。腰組が大迫力で迫ってきます。全ての部材が隙間無く見事に組みられています。



修理箇所が写真で説明されていたので紹介します。





明治時代の修理依頼110年の歳月で瓦、木部、基壇など全て解体し傷んだ部分を修復しているのですが、覆屋の中の部材は傷んだ部材はあまり見かけず、木材は耐用年数から見ても素晴らしい素材であると再認識しました。又1300年程前の建築がこれ程素晴らしい技術と発想で建てられている事に驚かされます。現在の建築は奈良時代の建築と比してどれだけ進歩しているのでしょうか。もしかしたら技術的にはなにも・・・かも。

平成32年6月修理完了予定。

渋い色合いの東塔の姿が好きな方も多いでしょうが、あと2年と半分。解体修理後は奈良時代天平文化の華やかさが再現されることでしょう。

※掲載記事・写真の無断転載を禁じます。